APUから地球に風を
EARTH WIND
立命館附属校APU通信
No16.
発行：学校法人立命館　一貫教育部
2013年6月13日発行

4月29日から30日の2日間実施された、附属校新任教諭APU研修。 APU通信では、先号に引き続き、リレー形式で、『教員の視点から見たAPU』をお届けします。

Jon Brooks　立命館宇治中学校・高等学校
IB Math and Business Teacher

WHY RITSUMEIKAN HIGH SCHOOL STUDENTS WOULD BE INTERESTED IN ASIA PACIFIC UNIVERSITY

Ritsumeikan high school students have many reasons why they would want to join Asia Pacific University. It's unlike many universities across Japan, almost feeling like an international hub located in a different country. Atop a mountain side with a gorgeous view, APU is a comfortable university perfect for studying.

Location

Perched aside a mountain 20 minutes from Beppu Station, APU is gifted with a gorgeous view of the country side of Oita. Walking around a campus bathed in sunlight refreshes the mind and body before, between, and after classes. The distance from the city can be appreciated by giving students a quiet place to study with little to no distractions.

AP House

The distance from the station is not an issue for the students as many prefer to live in AP House, located just a few minute walk off the side of the main campus. With no shortage of units, AP House comfortably houses around 1300 students from all over the world. Including amenities from full-sized kitchens to recreational activities, and staffed with Resident Assistants of senior students with diverse interests and ethnicities, AP House is a safe and enjoyable haven.

Student Body

In my opinion, the greatest strength to attending APU is the diverse student body it enrolls. With nearly 50% of students coming from 50 different countries, excluding Japan, walking around the campus feels very un-Japan-like—in a good way! It's tough to find that kind of diversity anywhere else in the country, let alone in a university atmosphere. With so many international students the chances to speak English are plentiful. Furthermore, many of those international students are studying at APU on an exchange program, and so they are going to be more outgoing and forthright when looking for others to talk to. With even a minute amount of interest, students from Ritsumeikan can easily find themselves socializing with people from all over the world; not only a great life experience, but also a great networkingopportunity for future years.

2013 附属校新任 APU 研修レポート

世界を味方につける compact world APU

立命館守山中学校・高等学校　　野坂 敦子

赤茶色のレンガ造りの建物が並ぶ新緑の美しいキャンパスを歩くと、すぐに様々な国籍の学生の中に自分がいることに気付く。誰に話しかけようか、と眺めているとベンチに座って話している国際学生と目が合い、インタビューのチャンスだ。近づいていき、彼と話している学生たちにも英語と笑顔で声をかけてみる。話してみるとベンチに座っている男子学生はスウェーデン出身。1 年間ロンドンで過ごした後ヨーロッパとは違う文化の中に身を置きたくてやってきた。彼に向かって立って話している学生はインド人。卒業後は日本で就職するつもりだが、将来はインドで仕事に就くつもりだ。もう一人立って話しているのはケニア出身の学生。奨学金が充実していることや日本語と英語での授業が受けられること、多文化環境に魅力を感じてやってきた。とにかく驚いたのは彼らの礼儀正しさだ。こちらが話しかけると、さっとサングラスをはずして手を体の前で合わせなおして、インタビューの質問に答えてくれた。

ここは大分県別府市にある立命館大学アジア太平洋大学（APU）。学生の約半数は世界 50 か国以上の国や地域出身の国際学生だ。どうりでキャンパスを歩いていても他ではない International な雰囲気があるはずである。国内で“ Global 5 大学 ”と呼ばれる国際学生の割合が多く、グローバル教育に力を入れていることで有名な大学があり、APU もその一つだ。だが、その中でも APU のこの国際学生の数は群を抜いている。学生たちは授業開始時間の前になると、同じ方向からたくさん歩いてやってくる。実は彼らは AP ハウスと呼ばれる“ 学生寮 ”に入っているのだ。日本ではまだまだ少ないオンキャンパスの学生寮で、寮生の 7 割が国際学生、 3 割が日本人学生。一つだった建物も、人気があるので数が増えた。キャンパスの他の建物と同じ色調の落ち着いた建物はアメリカの大学にある学生寮と似たつくりだ。シングルタイプ、シェアタイプの部屋の他に共有のラウンジや会議室、共用のキッチンもいくつかある。入寮は希望者が多く、なかなかの競争率となるのではあるが。APU の日本人学生は希望すれば、この国際学生たちと机を並べて学び、肩を並べて歩き、授業を受け、英語でディスカッションし、生活することができるのだ。

こんな多文化環境で生きている日本人学生はとにかく元気だ。APU についてのプレゼンテーションをしてくれた付属校の卒業生たちはそれぞれが自分のやりたいことがあり、目標に向かって進んでいる。タイの貧しい子供たちを支援する APU 国際学生と日本人学生のグループや、大学の授業以外にコンサルタント塾で自らを鍛え、“ ビジネスで貧困を救う ”ことを目指している学生、AP ハウスで RA（Resident Assistant）を務め、AP ハウスという Compact World で日本文化を発信したいという学生、一年間休学してアメリカ留学し、シアトルで大学とインターンシップを経験し、帰国した今実践的マーケティングの勉強に燃えているという学生、APU で人を引き寄せる力の持ち方を学んだという学生らが熱く語る。彼らが共通して言うのは、「結局は自分が何をしたくて APU に来たのかが大事。APU はすごいところだが APU に行けば国際人になれるわけではない。AP ハウスの環境に期待しすぎるのではなく自分のやりたいことを選択し、飛び込んでいくことが大切。」「しかし環境も大切。自分を変えるには環境を変えることが大切。これがやりたいと思ってこの環境を生かすこと。」である。そしてとりわけ印象的だったのが、「APU は世界に出る準備をする場所。世界を味方につける力を身に着けるところ。」という学生の言葉だ。

彼らを見れば、ビジネス雑誌の特集「人事部の評価が抜群に高い大学 8」で APU が一位に選ばれたのも不思議でないと実感する。附属校の高校生たちにもぜひこのことを体感してほしいと思う。

KEY WORDS!

- DIVERSITY(多様性)
- MULTICULTURAL(多文化)
- GETTING FLAT（均一化）
- ONEWORLD(世界は１つ)
- 世界で勝つ為ではなく
  “ 世界を味方にするには ”

立命館宇治中学校・高等学校　　水口 貴之

APU の魅力を知る為に国際学生に対して、以下の質問を行いました。１０人に質問しましたが、偶然にも１０カ国の学生に質問する事が出来ました。（アメリカ、スウェーデン、アフガニスタン、カザフスタン、中国、韓国、カナダ、スリランカなど）

１．どうやって APU を見つけたのですか？
→JICA を通して政府機関から知りました。　海外での説明会に参加しました。母国での大学が APU とパートナーシップを結んでいる事から。自分で調べました。

２．なぜ APU を選んだのですか？
→多国籍（Diversity）で多文化(Multicultural)の大学なので、本物の国際教育を得られると思いました。日本の文化にとても興味があったからです。高校の先輩が APU に在籍しており、良い大学だと紹介してくれました。とにかく新しい事に挑戦したかったからです。５０%が留学生という環境に魅力を感じました。

３．何を勉強しにきたのですか？
→国際環境や、国際社会、マネージメントなどです。

４．APU のおすすめは何ですか？
→温泉、海が一望できる景色、勉強するには静かで最適な環境
海外からの留学生が多いので外国人と思わない環境。水（1・２限目しかない）土日が休み。夏休み春休みが２ヶ月ずつある事。

５．週末は何をしていますか？
→映画、ショッピング、水泳、クリケット、スポーツ、アルバイトなど

６．授業は母国と何が違いますか？
→母国では椅子や机がなくテントの下で勉強をする。
先生に気軽に相談できて、詳しいところまで教えてくれる。
コミュニケーションしたり発信型の授業なのでプレゼンの力がつく。
チーム型で授業をするのでだれかが休んだりすると困る。

７．大学卒業後は何をするつもりですか？
→仕事を見つけたい。世界でたくさんの人に出会いたい。
インターシップでどんな会社があっているのか挑戦したい。
SONY で働いて、もっと電子機器を勉強したい。
教授になりたい！！
ファッション関係の会社を立ち上げたい！

＊　日本にいながらこのような国際感覚を養える環境は、他にはないと感じました。多様性の中で問題を解決、創造をするには何が必要か？自分を発信し、多くの方とコミュニケーションをとる事が１番大切だと、それぞれの生徒が学んでいました。

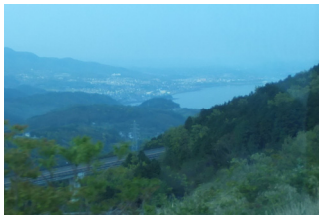
＊　また、このような環境にいる中でも、”APU にこれば国際人に成れるんだ！”という発想は完全に間違っていると多くの学生が後輩には伝えて欲しいと言っていました。環境ももちろん大事だけれども、自分自身が動かなくては何も変える事はできないと。
TAKE ACTION!!

2013 年度　附属校新任教諭 APU 研修　研修レポート

立命館小学校　　尾崎 文祥

立命館アジア太平洋大学(APU)は、50 カ国以上の多くの国・多くの地域からの留学生を受け入れている大学であり、約 45%の学生が留学生で構成されている。また、別府の山の上にあり市街地と離れているので、独特の空気を持っているように感じた。APU の中では、留学生がサークルの幹部を務めるなど、他大学ではあまり行われていないことが APU では普通に行われていて、留学生、日本人学生が区別なく意見をぶつけ合いながら学ぶ環境があった。

APU は市街地からは離れた環境


キャンパスからは別府湾が見渡せる

APU での授業の特徴は、開講されている約 80 %の講座が日本語と英語の 2 言語で開講されている。そして、教師が一方的に話す授業ではなく、学生同士が話すという特徴を持っている。1 回生の内から日本人学生と留学生とが、お互いに言語で苦労しながら、相手の意見を聞き取り、そして、自分たちの意見を伝え、決められたテーマに沿ってディスカッションを行われるらしい。英語が話せるようになることを目的とするのではなく、英語はコミュニケーションをとるためのツールとして使われていた。なかなか意見が伝えられない苦い体験の中で、今多くの企業で求められている「逆境に強くどんなことにもまずチャレンジしてみようとする姿勢」が生まれるのだと思った。

APU では、多くの地域から留学生が来ていることもあって、その人たちと関わることで非常に多くの文化とふれあうチャンスがある。ほかの文化を持つ人に自己の文化を伝えるには自分の文化を知らなければならない。このような環境では、自然とアイデンティティが形成されるのだと思う。また、日本では、メディアを通してしか知らないような地域の人とも直接顔を合わせてコミュニケーションをとることができる。メディアを通しての偏見を持って外国人に接するのではなく、その人自身がどうかというのを理解しないといけないということがわかると思う。また、今回の研修では、何人かの日本人学生、留学生ともに話を聞く機会があったが、皆さん非常に礼儀正しかった。相手の話を聞くときの礼儀等も自然に身につくのだと感じた。

APU はすばらしい大学だが、APU に行くだけですばらしい人になれるわけではない。受け身ではなく、目的意識を持って積極的に活動することができなければ、APU のすばらしい環境を生かすことができない。立命館アジア太平洋大学は、自分のやりたいこと・したいことをはっきりさせて、積極的に関われば、新たな自分を発見できるすばらしい環境が整っている大学であると感じた。

2013 年度　附属校新任教諭ＡＰＵ研修を終えて

立命館中学校・高等学校　　松山 佳樹

ＡＰＵは勉強するには非常によい環境である。ＡＰＵはアジアへの窓口である九州の別府に立地している。大阪や東京より発展している街ではなく、山の上に位置しており一見不便に見えるが、勉強に集中する環境としてはよいところである。学生たちにＡＰＵのよいところをインタビューした時も、勉強に集中できるという回答が返ってきた。勉強に集中できる理由として、ＡＰハウスという寮に入ると、全ての生活がキャンパス内でできるため、通学時間を大幅に短縮し効率よく勉強できるところにある。また、シェアタイプの部屋にもあるので、学生同士で学び合うこともでき、高め合う環境が整っている。

ＡＰハウスは、国際学生と日本学生が一緒に生活することができる寮である。学生比は国際学生６で、日本学生４であり、寮の部屋も日本人同士が隣同士になることもなく、日本に居ながら留学しているような環境になっている。寮の中では、共用のキッチンも併設してあるので、寮の仲間と各国の料理を披露しながら国際交流することができる。仲間に自分の思っている事を伝えたいという思いから自然と英語を使うようになり、確実に英語のコミュニケーション能力が身についていく。

ＡＰＵの講義を通じて英語の能力を向上させることができる。ＡＰＵは、他の大学よりもグループワークが多く、他の学生と意見交換をおこなうことが多くなっている。このグループワークにも国際学生が多く参加しているので、自然と意見交換は全て英語でおこなわれるようになってくる。このことも英語のコミュニケーション能力を向上させる一つの要因になっている。

サークル活動にも多くの国際学生が参加しており、ＡＰＵキャンパスでは日常生活の中で英語を使うことが当たり前のようにあるため、英語の勉強をするには最適な環境である。

しかし、このように恵まれた環境であっても、自分から動いていかなければ、何一つ得ることができない。結局は自分の意思が大切であるということが言える。受け身ではなく積極的に英語の中に身を置くことで初めて力が付いていくのである。ＡＰＵに進んだ際には何事にも積極的に参加していってほしいと思う。ＡＰＵは魅力あふれる大学であるので是非進学する事を勧める。

ＡＰＵの魅力と時代

立命館宇治高等学校　　山本 清之

2013 年、日本国内の多くの分野で国際化の重要性が説かれています。実は日本では、若者の間に海外旅行が流行した時代がありました。1980 年代、多くの学生が「世界を見ること」を目的に開高健の文庫本や当時、発刊間もない「地球の歩き方」を片手に世界に出て行ったのです。その後、バブルがはじけ、ソ連が崩壊し、紛争が拡散する中で多くの若者が内向きになる時代が来ました。学生時代に世界を見た親たちは、自分の子どもが、海外に飛び出すことに不安を覚え、内向きになる子どもを是とし、子どもを国内にとどめました。しかし、この間（1990 年代～2000 年代）、世界は、インターネットの普及に象徴される極端な一体化を実現しました。すべての事象が、クリックすることで意味を持つ時代に突入し、０と１が生み出す合理性に生身の人間が限りなく同調することを求められる時代です。

しかし、21 世紀を迎え、インターネットの仮想性が９．１１のビル崩壊の前で暴かれ始めると内向きであり続ける日本の限界が露呈し始めました。国内で、いち早くこの空気の変化に気づき、自ら動き始めたのはやはり若者たちでした。彼らは、「異文化に触れる」ことに専心していた親世代を軽々と越え、自己の存在と他者との関係性の中に多様性の承認が必要であることに直観的に気付き、世界を改めてじっと見つめ始めました。この若者の意識がＡＰＵを生み出したのです。

ＡＰＵは、時代に危機感を抱く若者たちの意識が生み出した大学でもあります。Diversity という言葉が盛んに出てくる大学です。おそらく、Multiculturalism と個人の関係も検討課題の主眼となってくる大学です。同様の課題は、アメリカの大学で常に底流に流れているものでもあります。ハーバーマスが苦悩しながら説いた民主的社会における承認への闘争に対し、アジア社会ならひょっとすると一層平和的に相互承認がなされるのではないかという可能性をＡＰＵは感じさせてくれます。換言すれば、「欧米の大学」とくくられる知の在り方では、答えの出せなかった課題にＡＰＵは挑戦しているのです。

ＡＰＵでは、東アジアの別府をステージに Multiculturalism の視点を通して若者が感じている現代社会の課題を見直すことで、新しい解決法が見出せるのではないかとの仮説を立てています。イスラム情勢を筆頭に検討すべき課題は山積しており、時代の閉塞感は、高まりつつあります。ＡＰＵの存在感が増しつつあるのかもしれません。この点を鋭く察知した企業は、やはりＡＰＵが生み出す人材に期待をかけています。既存の「知の枠組み」を越えて考えることができる人材、これは現在の企業が求める人材であり、今後の社会が求める人材でもあります。

ＡＰＵでの挑戦は、小さな一歩ですが、アジアにおける多文化主義という点で間違いなく地球規模での新しい一歩を意味します。その一歩を覚悟を持って踏み出す勇気が求められています。

APU

オンリーワンの存在として，

国際社会で輝くためのパスポートをその手に！！

立命館小学校　志賀　都子

【日本の中の小さな地球　ＡＰＵ】

世界８０カ国・地域より学ぶ覚悟と大きな志をもった本気の学生たちが集う学舎，それがAPUである。

別府湾と市街を見下ろす絶景のロケーションに位置し，豊かな自然の中で，世界各国の多様な文化にふれ，自分の中に眠るあらたな可能性を見出し，伸ばすことができる環境にある大学である。

日々の授業の中で，シャワーのように英語を浴びながら，考えをぶつけ合い，互いの考えに共感し，受容し，あらたな考えを創造していく中で，高いコミュニケーション能力・交渉力を身につけていく国内学生たち。日本にいながら，日本の常識が通用しない世界に飛び込み，その中で自分を見つめ，真に自律した自己を確立していく過程で，これからの社会を支えるグローバルな人材としての高い能力と強い心を身に着けていくのである。

ＡＰＵは，そのような能力や強い心を育む環境にあることは確かであるが，ここに来たから，必ずそうなるといった安易なものではない。ここで，何をなすか，全ては自己選択・自己決定により，なせる技である。環境に甘えることなく，環境を最大限に生かして，新たなことにチャレンジし，自分を変えようとする強い意志をもてば，高い異文化受容力・国境を越えたコミュニケーション力・交渉力・主体力・変革力・創造力をもって，世界で輝く「オンリーワン」の存在となる自己を確立することができるであろう。

【世界に開かれた　ＡＰＵ】

授業や課外活動を始め，ＡＰハウスでの生活と，ＡＰＵでは，学び合い・活動し合う仕組み・仕掛けが満載である。ＡＰハウスの生活は，見知らぬ国「日本」に来て学ぶ国際学生を温かくサポートする環境を整えると共に，国内学生にとっても人種や国境のカベを乗り越え，お互いを受け入れながら，より良い考えを生み出していく共同・共生体験を日常的に積み重ねている。ＡＰハウスでの生活が人間力を大きく育んでいくことは間違いない。学生にも人気が高く，ＡＰＵへ入学するよりもＡＰハウスに入寮する方が難しいと言われるのは，それ故である。

国際・国内問わず学生達は，お互いに交流し合いながら，授業においてあるいは課外活動において，一つのものを創り上げていく醍醐味を味わい，人と人との出会いを大切にし，ともにＡＰＵで学ぶ喜びを感じている。

【グローバルな視野で今を問い直すきっかけをくれた　ＡＰＵ】

ここでの学びに感謝し，卒業後，その恩に報いんと，日本社会で活躍したいという国際学生たち。あるいは，学びを生かして，世界を味方にし成長していけるような会社を起業したいと夢を語る日本人学生。今求められる社会貢献とは何かをじっくり考え，世のため人のために働くことを夢見る学生。

多くの可能性とチャレンジ精神に満ちあふれた若者達にふれ，附属小学校教諭として，自己を見つめ直し，今目の前にいる児童にどのような教育をしていくべきか，もっとグローバルな視野にたって考えていきたいと思う。

教え子たちに，将来，国際社会において，オンリーワンの存在として輝き続けることができるような人間力を育むため，不易なる心の根をしっかりと育てるとともに，一方で柔軟に異文化を受け入れながら新たなものを創造する逞しさを育てていきたいと思う。

立宇治なべ先生の

行ってきました! APU!!

世界へのスタートライン探訪

アジア太平洋大学の
シンボル、ツインタワー

立命館アジア太平洋大学は大分県別府市近隣の山腹、標高330mの地点に、東京ドーム9個分の敷地面積を誇る、外国留学生が学生の半数近くに及ぶ、国際色豊かな大学です。英語による講義はもちろん、日本人外国人がともに議論するグループワーク、サークル活動が大きな特徴。まさに天空に浮かぶ多国籍アカデミックキャンパス…それがAPU(Asia Pacific University)です

大学を横断する、幅広い
メインストリート

開放的な食堂に入ると、料理も多国籍
んん～ン　international!!
定食から一品料理まで、アラカルトで
Free Choice!!
しかもスパイシーなエスニック料理に、
四川料理に、タイ料理、・・・
国際学生にとっては故郷の味ですネ。
もちろん日本定番「冷や奴」もありました！！

学生達は別府市内のことを「下界」といいます。まさに天空の住人達ならではの言葉ですね！日常雑貨品など、毎度毎度下界に降りて、買い出しに行くと大変！！だから、事務用品・書籍・お菓子など研究・学習・生活に必要なものは大分県で最も充実している大学生協で購入します。コンビニではありません。スーパーマーケットのような充実度でした！

学生寮　APハウス

寮生1300人中、国際学生と国内学生比率は**7：3**です！。

日常生活でも異文化交流

特徴的なのはレジデント・アシスタント(RA)と呼ばれる学生が各フロアから選出され、国際学生の生活サポートや交流リーダーを担当しています。彼らこそAPU学生のメンタル部門の縁の下の力持ち的な存在なのです。

『すばらしい環境に甘んじることなく、志を高く、世界に目を向けた目的意識を持って入学して欲しい』

これは附属高校出身の先輩方の声です。どこで学ぶかではなく、何を学ぶか。すばらしい環境の中で、知識と経験、両面から学べる大学です。

機会があれば、ぜひみなさんもAPUに行ってみよう！！

文責　立命館宇治高等学校　物理科教諭　渡辺儀輝

(取材日 2013.4.30～5.01)